

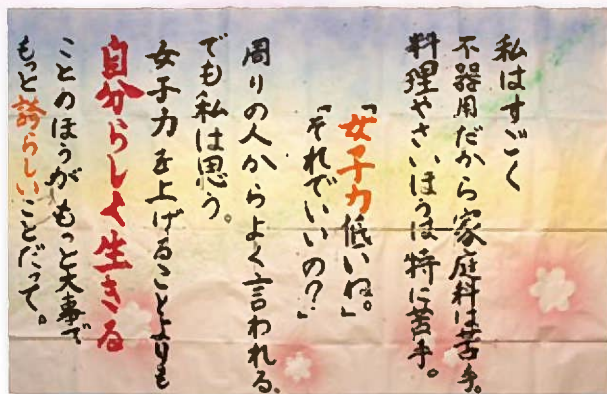
# フェアラ

Fala



「フェアラ」は山形市男女共同参画センターの愛称です。  
「フェアラ」Falaとは、Female(女性)とala(翼)を組み合わせた造語です。

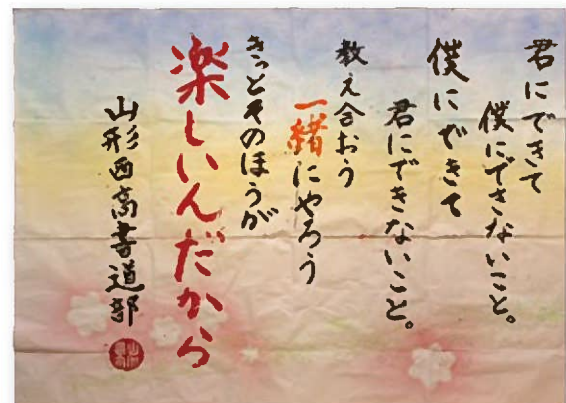
令和元年9月29日にチェリアフェスティバル山形2019が開催され、山形西高書道部の皆さんが書道パフォーマンスを行った時の作品です。題材は、山形市で募集した男女共同参画に関する作品の一行詩部門最優秀賞作品です。



一行詩部門  
中学・高校の部

最優秀賞作品

一行詩部門  
大学・一般の部  
最優秀賞作品



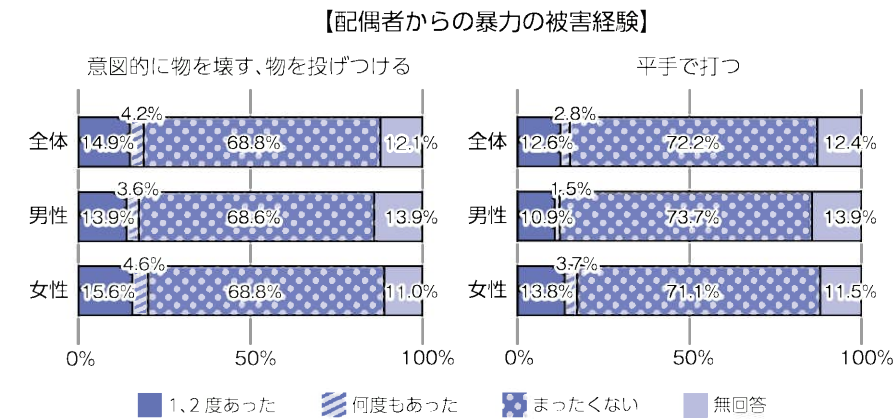
2 「男女共同参画のまち山形」の実現をめざして  
市民・事業所のアンケートから見る  
山形市の男女共同参画

4 意識・実態調査データで見る  
やまがたのWLB ワークライフバランス

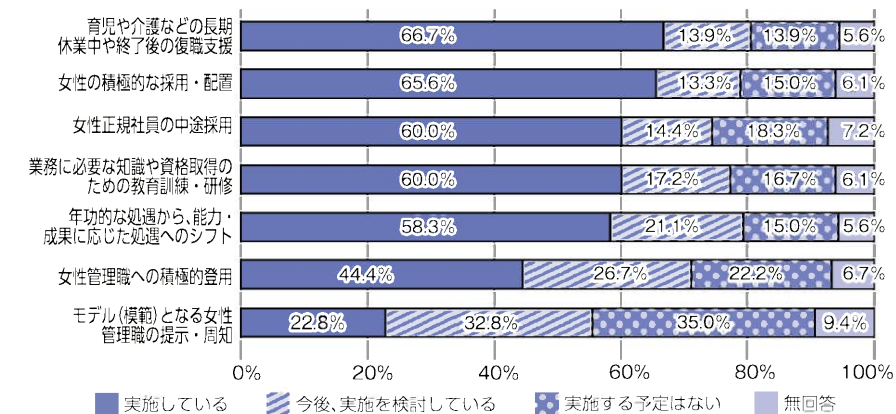
6 フェアラ開催講座のご紹介

8 Information  
フェアラからのお知らせ





3 人権について  
配偶者からの暴力の被害経験については、「平手で打つ」は女性17・5%、男性12・4%が、「意図的に物を壊す、物を投げつける」では女性の20・2%、男性の17・5%が被害経験ありという結果でした。

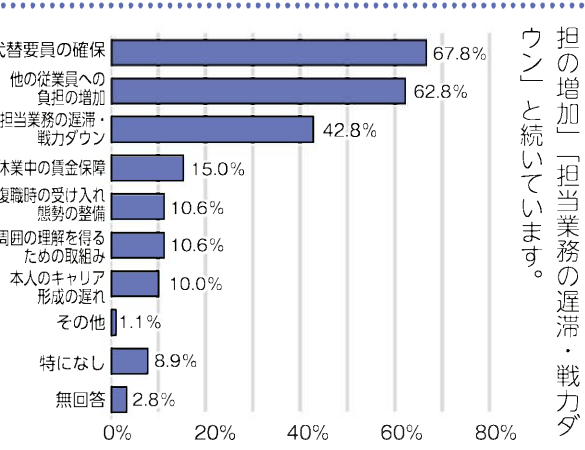
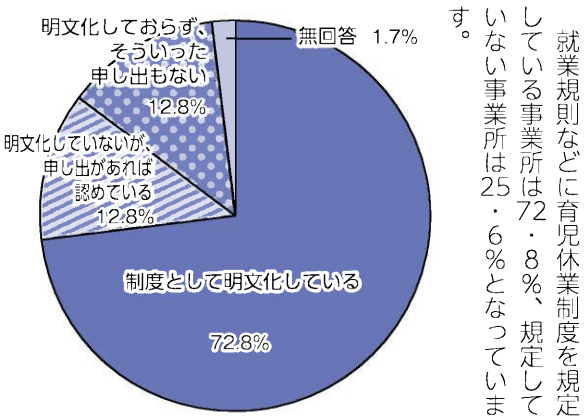


4 女性の就労継続・管理職登用のための取組み  
女性の就労継続や管理職登用のために事業所が行っている取組みについて、「育児や介護などの長期休業中や終了後の復職支援」「女性の積極的な採用・配置」を実施していると回答した事業所が65%を超える結果となっています。

### ご要望やご意見(抜粋)

- 男女共同参画社会を実現し、平等でありたいと思いつつも、\*すりこみ、に無意識に支配されそうな自分がある。まだまだ、男らしさ、女らしさ、「~すべき」に支配されている。それぞれの意識を変えていかなければと考える。
- 男性、女性、それぞれの役割があり、その上で男女お互いがそれぞれ尊重し合うことが大切なこと。
- 介護や家事の負担が減るような技術を導入すれば、男女ともにより社会に参画できると思います。
- 男性の育児参加など言われているが、育児、家事を手伝いたくても仕事が忙しくて暇がない。
- 家庭内での共同参画は、子どものころからの教育が必要。
- 男性が押し付けられている役割の解消・解放などに取り組んでほしい。女性の権利拡大のみで男性に新たな義務を背負わすだけでは不平等。
- 結婚する人、しない人、子どもがいる人、いない人、働く人、働かない人、性的マイノリティ、老々介護、独居、もう既に家族とか男女とかではなくなっている時代。男女とか言っている場合ではない。そういった多様なあり方を包括していくための施策を早急に打つ必要があると思う。

調査にご協力いただきありがとうございました。貴重なご意見・調査結果を今後の男女共同参画施策に活かしてまいります。



5 仕事と家庭の両立支援  
就業規則などに育児休業制度を規定している事業所は72・8%、規定していない事業所は25・6%となっています。育児・介護休業制度を活用するうえでの課題については、「代替要員の確保」が最も多く、「他の従業員への負担の増加」「担当業務の遅滞・戦力ダウン」と続いています。

# 山形市の男女共同参画

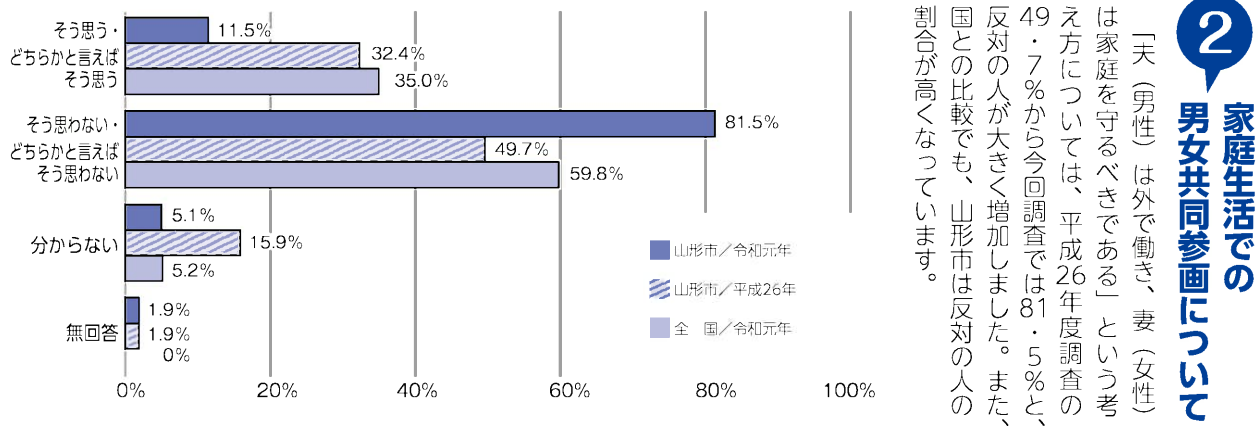
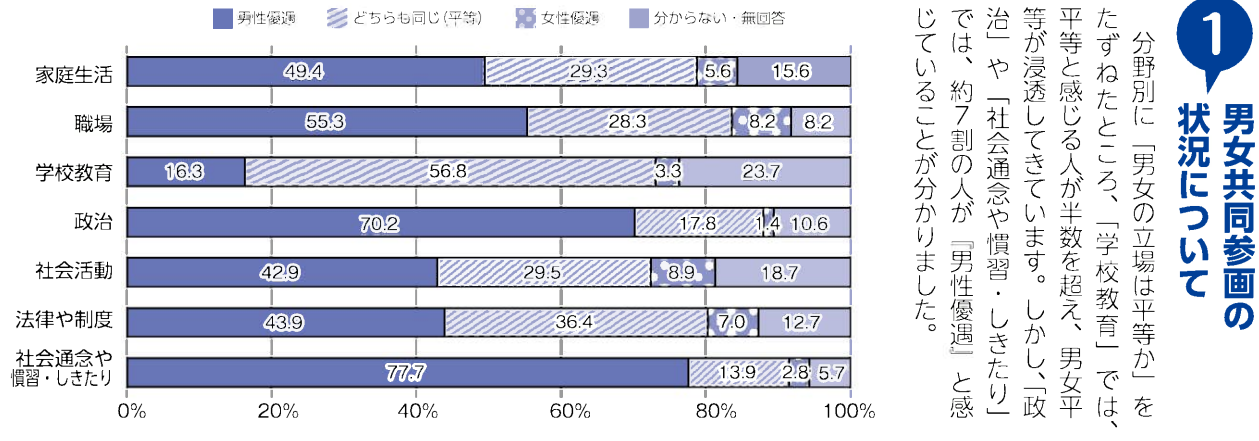
## 市民・事業所のアンケートから見る

### 「男女共同参画のまち山形」の実現をめざして

山形市では、平成28年3月に第3次「いきいき山形男女共同参画プラン」を策定し、これまで様々な取り組みを進めてきました。

令和元年8月に、市民と事業所の皆さんを対象に、男女共同参画に関するアンケート調査を実施しました。今回は、その調査結果の一部をご紹介します。

調査概要	市民調査	事業所調査
調査期間	令和元年8月1日～19日	令和元年8月1日～29日
対象者	山形市内に居住する20歳以上の男女2,000人	山形市内にある従業員5人以上の事業所500社
有効回答数	583人	180事業所
回収率	29.20%	36.00%

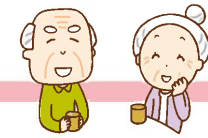




# GOAL!

仕事においても、家庭においても、多様な生き方を  
選択・実現するためにはワーク・ライフ・バランスが重要です。  
まずは自分事として考えてみましょう！

▶男女共同参画センター「ファーラ」では、健康講座、働く女性  
の講座、男性向け講座など、様々な講座を実施しています。  
講座の内容や応募方法は広報やまがたやHPをご覧ください。



▶自治会やボランティアの活動に  
関わり、新しい友人ができた

▶気軽にできる  
運動も  
始めたいな

健康第一！  
生活習慣を見直す



自分達が  
住む町を  
よりよくなる  
手助けがしたい



学び直し  
がしたい

▶定年退職  
介護を続けながら、これから  
どうするかじっくり考えよう

周囲の人の力を  
借りながら  
介護を続ける

親に介護が必要になった  
介護休業を申請



▶子どもが独立  
子どもが選んだ道を  
応援してあげたい



▶子どもが小学校へ入学  
「男らしくなさい」「女らしくなさい」  
これって本当に必要？

	賛成	反対
子どもをしつけるとき「男だから」「女だから」と性別によりしつけるべきである	22.0%	69.8%
男の子にも炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身に付けさせる方がよい	96.0%	1.4%
女の子は浪人してまでも大学に行く必要はない	12.3%	77.5%

▶育児休業から復職  
保育園の送迎も手分けしよう



【雇用形態別の割合】

	正規の職員・従業員	非正規の職員・従業員
男性	78.5%	21.5%
女性	50.8%	49.2%

子育て



▶家事も育児も2人の仕事。  
おむつ替えも血洗いも分担しよう！

男性も女性も平等に家事をすべきである  
そう思う 37.4%  
どちらかといえばそう思う 39.3% ...計 76.7%

男性の1日あたり平均家事時間0分の割合 ...3.6%

上司の後押しもあり  
育児休業を申請する



意識・実態調査データで  
見る

# やまがたの WLB

ワーク・ライフ・バランス

「ワーク・ライフ・バランス」は知っていますか？  
男女を問わず、だれもが仕事や家庭生活・地域活動など  
自らが希望するバランスで展開できる「仕事と生活の調和＝ワーク・ライフ・バランス」の推進は、  
男女共同参画社会の実現に不可欠です。  
山形市の調査データをもとに「ワーク・ライフ・バランス」について考えてみましょう。

# START!



▶社会人1年生！  
仕事を任されてやりがいがある日々。でも残業が多くて…

	生活の中で優先したいもの	生活の中で優先しているもの
1位	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい 30.2%	「仕事」を最も優先している 39.0%
2位	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」のいずれも優先したい 12.3%	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している 21.8%
3位	「家庭生活」を最も優先したい 11.6%	「家庭生活」を最も優先している 9.5%

▶長時間労働による  
過労で体調を  
崩してしまった



仕事だから仕方ない

働き方を見直してみよう

仕事中心の生活を  
見直してみよう

▶効率の良い仕事の進め方を工夫してみた  
残業が減って自分の時間も増えた

趣味や自己啓発に  
時間を使えるよう  
になった



▶ひとりでも自分らしく  
生きるシングルライフを  
穏やかに楽しみたい

シングル  
ライフ

育児休業は女性がとるものだから  
パパは取得しない



ワンオペ育児で  
ママが体調を崩した！

【男性が育児休業や介護休業を取得することについて】  
男性が育児・介護休業を取ることは賛成だが、  
現実には取りづらいと思う 69.6%

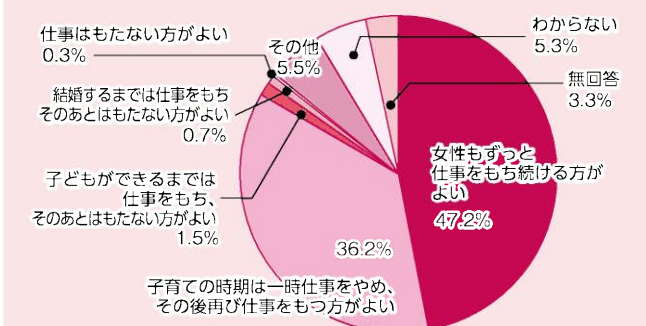
【育児休業や介護休業を取りづらいと思う理由は？】

1位	職場に取りやすい雰囲気がないから	55.9%
2位	男性が取ることに社会全体の認識が十分でないから	45.8%
3位	取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから	45.3%

結婚

▶趣味を通じて出逢った人と結婚！  
共働きするか悩む…

【女性が仕事を持つことについての考え方】



！出産！

▶第1子誕生♪  
男性も育児休業を  
取得できるけど…



共働きを選択した！  
※山形市の共働き率：53.1%  
(H27 国勢調査)



自主企画講座

『おもしろいことを見つけよう!』

令和元年  
9月17日(火)



講師：やまがた育児サークルランド スタッフ



当日は、葉っぱのフロッタージュでのガーランド作り、どんぐりを使ったマラカスを作ってリズムダンスを行い、親子で楽しい時間を過ごしました。出来上がったマラカスを手に皆で歌いながらのダンスはとても盛り上がりました。

『のぞいてみない?イヤイヤ期の子どものココロ』  
～おもしろくて、わかりやすい 発達心理学からみる子どものキモチ～

令和2年  
1月22日(水)

講師：東北文教大学 人間科学部 准教授 永盛 善博 さん

「初めての反抗期を発達心理学の観点からのぞいてみる」のテーマに沿っての講義と参加者同士の意見交換を行いました。

参加者からは、「幼児期の心が大人とは全く別物ということがわかり、無理にしつけようとせず、楽しんで育児をしようと思った。」「私だけではない・・・と勇気づけられた。」「肩の力を抜いて育児を楽しんでいけたらと思った。」と感想が寄せられ、とても有意義な時間となりました。



市民企画講座

『こんな時、誰に相談する?』

～ケース・スタディを通して学ぶ依存症と暴力の関係～

令和2年  
1月18日(土)

講師：山形大学 基盤教育院 准教授 加納 寛子 さん



ツイッター等のSNSでのいじめや炎上が問題視され、今は誰もが被害者・加害者になり得る時代です。また、連れ去り事件の場合、昔は無理矢理連れ去られるケースが多かったが、今は、被害者が自ら加害者の元に行くケースが多くなっており、それもSNSがきっかけとなっている場合がほとんどのことです。SNS、スマホ依存症に陥らないためには、携帯電話等を使い始める時にトレーニング期間を決め、送受信の内容を記録するのがよいとのこと。子どもは大人の背を見ている。大人も携帯電話等を使う時間や場所を決めるなどして、教師や保護者自身が子ども達の見本になることが重要です。

PCの使い方(データ入力など)はAIでも出来ますが、情報を読む力(データを読む力)は人間が行う事。小さな頃から大人と一緒にインターネットを使って勉強する機会が必要とのことでした。

『私と大切な人の為に踏み出す  
防災/減災スタートライン!』

令和2年  
1月19日(日)



講師：ヤマガタ防災・減災 Action! 代表 細谷 真紀子 さん



細谷先生が持参された資料に基づきクロスロードゲーム(カードを用いたゲーム形式による防災教育教材)を中心に、参加者同士の意見交換から先生のアドバイス・見解へと進みました。「答えが出せないことに、答えを出していかなければならない」ということは、災害時だけの特別な行動ではなく、今、日常にある課題に目を向けて活動していくことだと気づくことができました。身近な出来事を想定した講座内容に参加者は熱心に聞き入り、具体的でわかりやすいと参加者からもとても好評でした。

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、制限の多い中での講座開催となりますが、皆さんの笑顔に会えることを楽しみに企画して参りますので、どうぞご参加ください。

なお、感染拡大状況により、講座中止となる場合もございますが、ご了承いただきますようお願いいたします。

フェア開催講座のご紹介

令和元年9月～令和2年3月まで、市男女共同参画センターにて開催された講座をご紹介します

自主企画講座

『すぐ使える英会話』

講師：高校・幼稚園等英語指導者 後藤 ジャネット さん



令和元年  
12月6日(金)

入門編 ～街で道を聞かれたら～

ジャネット先生の飛びぬけて明るいキャラクターで終始笑いのあふれる講座となりました。2週連続講座で、この日は入門編。米国の実生活で使う単語、フレーズ、考え方を、親しみやすい内容で、ジェスチャーを交えて指導してくださいました。帰り際に受講生から「来週も楽しみ!」という声が聞かれました。

令和元年  
12月13日(金)

応用編 ～Life in Yamagata～

連続講座の2週目は応用編。ガイド用に先生が用意してくださった資料(県内市町村別の分野別案内)が非常に充実しており、持ち帰って読み返すと更に理解が深まりました。

例えば、「Where is the best place to go in Yamagata?」と聞かれ、「蔵王が有名」と答えたら…なぜ有名か(樹氷、温泉)など外国人が行きたくするような説明を付け加えると良い。外国人は結論より過程が大好きで、話好きとのこと。具体的でわかり易い講座内容が大変好評でした。



『女性のためのビジネスマナー講座』  
～接遇・コミュニケーションについて～

令和2年  
2月20日(木)

講師：フリーアナウンサー 前川 孝子 さん



様々な実践例を通して、ビジネスにおけるマナーを学びました。マナーは、人が人として円滑な社会生活を送るために必要不可欠なものです。一言で表すと、相手を尊重する心。相手と気持ちよくコミュニケーションを取るには、分かち合いと共有が欠かせません。そのためには声の調子や表情、態度で相手を尊重していることを示すことが大切です。挨拶も重要な役割を果たしています。言葉遣いは、「～してください」という命令形は避けて依頼形にしたり、否定語を使わないようにしたり、肯定的な表現にしたりするなど、ちょっとした工夫で相手との関係が良くなります。

『お父さん、おじいちゃんと食品サンプルを作ってみよう』  
～かわいいメモスタンドとマグネット～

令和2年  
2月8日(土)

講師：食品サンプルアート協会認定インストラクター 「3時のおやつ」 岸 麻由 さん

子ども達がお父さん、おじいちゃんと一緒に、かわいいデザートメモスタンドとチョコのマグネット作りを行いました。型にシリコンを流し、色を塗ったチョコのマグネットは1週間後のバレンタインにぴったり。

メモスタンドになるデザートメモスタンドにはクリームやトッピングを思い思いに飾り、同じものが2つとない自分だけのかわいいメモスタンドが出来上がりました。子どもはもちろん、大人も夢中になってしまった。子どもはもちろん、大人も夢中になってしまった。楽しい時間となりました。





# お知らせ

次号で  
ワーク・ライフ・バランス  
紙上演会  
『笑って考えよう!  
仕事とくらしと我が家の未来  
～男の家事が社会を救う!～』  
を予定しております。



令和2年度

## 「男女共同参画(ワーク・ライフ・バランス)講演会」 「男女共同参画に関する作品 (一行詩・写真)募集」 について

新型コロナウイルス感染防止により、毎年開催しておりました男女共同参画(ワーク・ライフ・バランス)講演会、及び男女共同参画に関する作品(一行詩・写真)募集を今年度は見合わせる事となりました。  
楽しみにお待ちいただいた皆さまには大変申し訳ございませんが、何卒ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。  
またの機会にご参加くださいますようお願いいたします。

## DVのお悩み、ひとりで抱えていませんか? 内閣府が新たに相談窓口「DV相談+(プラス)」を開設しています

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは男女を問わず、一般的に配偶者や交際相手など親密な関係にある(あった)人から振られる暴力のことを言います。「これってDVかな?」「暴力を振られている」「自分だけでなく子どものことも心配」など、どんなご相談でもお気軽にご連絡ください。  
内閣府では24時間電話相談対応、メール・チャット相談、WEB面談対応、10の外国語での対応を行う相談窓口「DV相談+」を開設しました。

**DV相談+(専門の相談員が対応します)**

電話相談 つなぐ はやく 0120-279-889 (24時間受付)

メール相談 24時間受付

チャット相談 正午～午後10時 (10か国語対応)

※メール相談、チャット相談についてはホームページ(soudanplus.jp)をご覧ください。  
※生命の危険を感じたときは、警察(110番)へ



### 編集後記

コロナのニュースが全くなかった今年のお正月が何年前のことだろうと思うほど、出口の見えない日々がどんなに長く苦しいか思い知らされた。一方、小3の息子は長い臨時休校期間中、コロナなど吹く風でプログラミングに明け暮れ、充実した日々を過ごしていた。もはや専門用語ばかりで親は理解に苦しむぐらいになり嬉しい悲鳴だ。プログラミングは理屈や概念から入らず、いきなり自分で作るのが重要だそう。プログラミングの世界は日々新しくなっていて、試行錯誤しながら自分で切り開いていかなければならない。コロナ禍の今、私たちに求められている「新しい生活様式」は固定概念にとらわれた大人たちにはとても難しい。適応能力の高い子どもたちの方がコロナウイルスとの共存をいとも簡単に乗り越えていくのだろうと、息子の背中に希望が見えた。(山下みどり)

編集協力員 板垣 玲子 熊谷 功二 茂木 政樹 山下 みどり

●男女共同参画情報紙「ファーラ」は、以下の場所で配布しています。  
男女共同参画センター「ファーラ」、市役所(1階刊行物コーナー・市民課待合フロア)、霞城セントラル内の市の施設、市の公民館、コミュニティセンター、市立図書館  
●男女共同参画情報紙「ファーラ」は、インターネットでも見ることができます。(山形市HPで「ファーラ」で検索してください。)  
●読んだご感想・ご意見などがありましたら、ぜひお寄せください。お待ちしております。